

## 古琉球と現代沖縄の空間的連続性をもつ集落地域に関する研究 - 千年村研究その7 -

正会員 ○ 木村 真拓\*  
同 中谷 礼仁\*\*

集落研究 沖縄 『おもろさうし』

本研究は千年村プロジェクトに基軸を置くものである。千年村プロジェクトとは千年間を基準とした持続する集落地域を千年村と名づけ、その収集分析と存続のためのアセスメントの開発を目的としている。<sup>1</sup> 長い存続の歴史を持ち、様々な圧力を受けつつも、歴史的な特性を保持し続けてきた空間の立地には経済的基盤、生産性や防災性が考慮され、持続的で土地固有のシステムがすでに育まれてきたと考えている。しかし、そのような性格は突出した文化財的評価の対象としてではなく、むしろ健全な日常的国土を支えている。第一稿では、地名を用いた沖縄における持続的集落地域の抽出方法とその結果について述べる。第二稿ではアイヌ語地名から見る持続的集落地域の抽出とそれに基づく考察について述べる。第一稿、二稿は、2014年度建築学会大会にて報告した「千年村研究その1」<sup>2</sup>および「千年村研究その2」<sup>3</sup>における手法を展開したものととなっている。千年村プロジェクトにおける新たな地域のプロットと該当地域の特性を検討した結果を報告した。

### 1 本研究について

本稿では沖縄において、長期にわたる存続が確認でき、かつ現在においても存続している可能性のある集落地域を文献を用いて抽出する手法を報告するとともに、抽出及び可視化を行った結果を示す。

### 2 古琉球由来の集落地域を文献および先行研究から抽出する方法

#### 2-1 抽出に用いる資料とその先行研究

##### □ 『おもろさうし』について

『おもろさうし』は、沖縄において琉球方言で伝承された祭式歌謡であるオモロを収録した歌謡集である。沖縄における文献資料としては最古のものである。嘉靖10年(1531年)から天啓3年(1623年)にかけて首里王府<sup>4</sup>によって編纂され、全22巻に及び、収録されたオモロは総数1554首にのぼる。オモロの中には、当時の地名が多く謡いこまれており、『おもろさうし』は地名資料としても価値を持つものである。



図1. 尚家本『おもろさうし』

##### □ 『角川地名大辞典 47 沖縄』について

『角川地名大辞典』は、1978-90年にかけて刊行された日本全国の地名に関する辞書であり、日本全国の地名について、地名の由来と沿革、歴史等を紹介している。『角川日本地名大辞典巻47 沖縄県』<sup>5</sup>(以下、『角川47 沖縄』とする)は1986年に刊行され、当時の沖縄における地名が収録されると同時に、近代・近世における地名も記載されている。

さらに、『おもろさうし』記載の地名に関する項目があり、既往研究に基づいて、当時のひら仮名表記の地名・比定される現在地・関連するオモロの例などが記述されている。

##### □ 先行研究と本研究の位置付け

『おもろさうし』と地名に関する既往研究として、『おもろさうし辞典-総索引』<sup>6</sup>に掲載されている仲原善忠<sup>7</sup>によるプロット地図が挙げられる。この地図は『おもろ新釈』<sup>8</sup>に取り上げた140首の地名を地図上にプロットしたものである。これらは『おもろさうし』にみられる地名の一部を可視化したものであり、『おもろさうし』における地名研究の下地として作成されたものである。他の『おもろさうし』と地名に関する既往研究としては、竹内重雄氏<sup>9</sup>や嘉手苺千鶴子氏<sup>10</sup>の研究があるが、これらの研究は『おもろさうし』に記載された様々な地名の分布をもとに、『おもろさうし』の編纂の傾向を分析し、当時の沖縄の社会を考察するものである。本研究は『おもろさうし』記載の地名の中でも、特に集落地域を抽出し、それら集落地名の現在地比定の既往研究を再び整理し完備した。これにより、沖縄において長期的存続が確認でき、かつ現在も存続している可能性のある集落地域を発見することを目的としている点に新規性がある。

#### 2-2 抽出の対象および抽出した集落地域の性格

##### □ 抽出の対象

本研究では『角川47 沖縄』の中に収められている『おもろさうし』記載の地名を抽出の対象とした。前述の通り、上記辞典には、『おもろさうし』にみられる地名に関する情報が記載されているが、歌謡集であるという性質上、様々な意味の地名が混在している状態である。つまり、集落、小字、間切、島・諸島、拝所・御嶽といった異なる範囲を示す地名が混在して記されているという事である。本研究ではこれら地名のうち、集落を抽出の対象とした。

##### □ 抽出した集落地域の性格

ここで『おもろさうし』に記載の地名の成立時期について既往研究から考察する。『おもろさうし』が編纂されたのは嘉靖10年(1531年)から天啓3年(1623年)の間である。編纂の時期よりも早い時期に「おもろ」が確認され文字に定着したことを考えると、これらの地名は、薩摩藩の琉球侵攻(1609年)により沖縄が日本本土の幕藩体制下にとりこまれ、近世的な行政村へと変化する以前の古琉球期の社会背景下で存在していた共同体であると考えられる。<sup>11</sup> 以上より本研究にて抽出される集落地域は、古琉球の社会下において共同体を占める空間が存在し、それが現在まで存続した可能性のある地名である。

A study of the villages which have continuity between ancient Ryukyu and modern Okinawa  
-Millennium villages research Part7-

KIMURA Masahiro, NAKATANI Norihito

## 2-3 地名の類型化の方法

### □類型化の手順

次に、地名の類型化のプロセスについて述べる。『角川47 沖縄』に収録されている『おもろさうし』に記載の地名を全てリスト化し、記述に基づいた分類を行った。比定の精度による分類に関しては、千年村プロジェクトの既往研究に基づき分類を行った。<sup>12</sup> 図2にそのプロセスを示す。

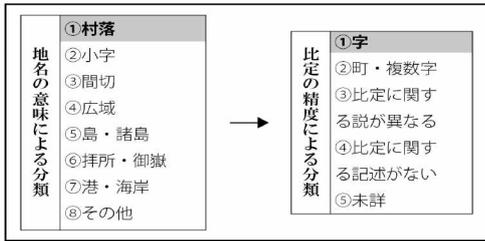


図2. 類型化のプロセス

第一段階として、地名の意味による分類を行った。上述の通り、『おもろさうし』記載の地名は、異なる範囲を示す地名が混在するため、上記辞典の記述に基づき、それらのうち集落名を表す地名を抽出した(表1)。

地名の意味による分類							
集落	小字	間切	広域	島・諸島	拝所・御嶽	港・海岸	その他
114	10	12	14	19	19	16	36

表1. 地名の意味による分類

第二段階として、地名の意味による分類により抽出した集落名を対象に、上記辞典内の『おもろさうし』記載の地名の項目に記載された現在地比定に関する記述に着目し、比定の精度による分類を行った(表2)。これらの分類は千年村プロジェクトの既往研究に基づく。字にあたる地名を地図上にプロットし可視化を行った(図3)。

比定の精度による分類					
字	町・複数字	説が異なる	比定に関する記述がない	比定に関する記述がない	その他
98	2	3	8	3	3

表2. 比定の精度による分類

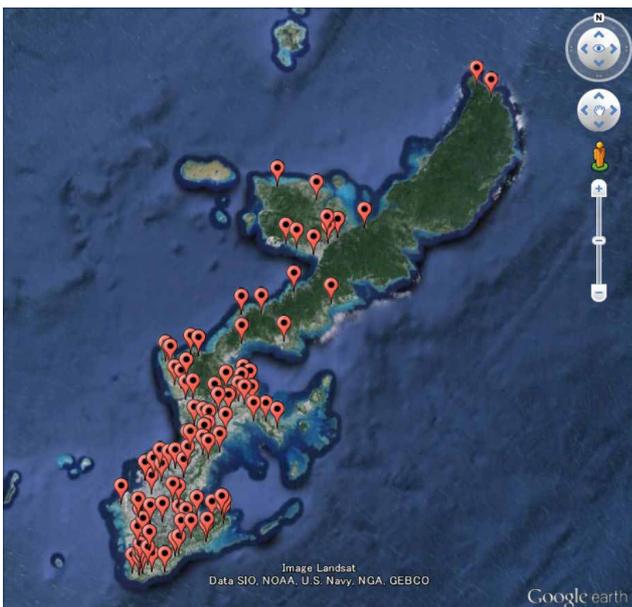


図3. 沖縄本島全域のプロット図

\* 早稲田大学創造理工研究科建築学専攻

\*\* 早稲田大学創造理工学部建築学科 教授・博士(工学)

## 3 プロットから見る古琉球由来の集落地域の立地傾向

抽出した古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域を可視化したプロット地図と地質図との照合を行った。この分析の結果、基本的に『おもろさうし』から抽出できる古琉球期から存続してきたと考えられる集落地域は、成立年代の異なる地質の境界部に位置する場合が多い事が確認できた。この傾向は他地域の千年村候補地にも共通して見られる事である。<sup>13</sup>



図4. 沖縄本島南部における集落地域のプロット図

## 4 まとめ

本研究を通して、『おもろさうし』および『角川47 沖縄』という文献資料を用いて、沖縄における長期にわたる存続が確認でき、かつ現在においても存続している可能性のある集落地域を発見する手法を示した。これら集落地域はあくまで長期的持続が認められる可能性のある候補地であり、今後体系的な調査による現況の把握を行うことが求められる。また、本研究で抽出した集落地域は『おもろさうし』に収録された範疇の候補地であり、他にも長期にわたる存続してきた集落地域が存在する可能性は十分にあると考えられる。

※本研究は2015年度文部科学省科学研究費助成基盤研究(B)「国土基盤としての〈千年村〉の研究とその存続のための方法開発」(26289224)による研究成果の一部である。

註1 「千年村プロジェクト」ウェブサイト(<http://mille-vill.org/>):〈千年村〉とは、千年以上にわたり、自然的社会的災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域のことをさす。千年村プロジェクトは、全国の〈千年村〉の収集、調査、公開、顕彰、交流のためのプラットフォームの構築を目指す。2 庄子幸佑、中谷礼仁他「平安期文献『和名類聚抄』記載地名の現在比定地を用いた〈千年村〉抽出方法に関する研究:千年村研究その1」(学術講演梗概集2014(建築歴史・意匠)、119-120) 3 庄子幸佑、中谷礼仁他「地名からみた現代社会における古代の影響に基づく地域社会評価の手法:千年村研究その2」(学術講演梗概集2014(建築歴史・意匠)、121-122) 4 首里王府 琉球王国(1429~1879年)の統治組織 5 「角川日本地名大辞典」編集委員会編『角川日本地名大辞典巻47 沖縄県』(角川書店、1986) 6 仲原善忠『おもろさうし 辞典・総索引』(角川書店、1967)の巻末資料として添付されている 7 仲原善忠 なかはらぜんちゅう(1890-1964) 沖縄研究者。主に『おもろさうし』の研究で知られる。8 仲原善忠『おもろ新報』(琉球文教図書、1957年)9 竹内重雄『おもろにうたわれた地域と人—「地方おもろ」の分析とその特徴—』(沖縄文化研究8)(法政大学沖縄文化研究所、1981年) 10 嘉手刈千鶴子『「おもろさうし」にみる地域区分について』(沖縄文化研究22)(法政大学沖縄文化研究所、1996年)を参照 11 比嘉実『「おもろさうし」の成立時期について「地方おもろ成立の周辺—地方おもろと文字の出逢い—』(古琉球の世界)(三一書房、1982年)にて、「地方おもろの成立を証拠立てる記録は、各巻の表紙扉の記載がすべてである。それは、地方おもろの文字固定が扉に記載された時期に定着したことを意味するのではなく、扉の記載年代は、現存する『おもろさうし』の成立レベルにおける各巻の成立時期を意味し、地方おもろが最初に文字に出逢い、固定した年代を示すものではない。』(P151)と述べている。12・13 庄子幸佑、中谷礼仁他「平安期文献『和名類聚抄』記載地名の現在比定地を用いた〈千年村〉抽出方法に関する研究:千年村研究その1」(学術講演梗概集2014(建築歴史・意匠)、119-120) 図版出典 1 尚家本画像 琉球大学付属図書館 展示資料室 伊波普猷文庫貴重資料展 展示資料紹介 <http://manwe.lib.u-ryukyuu.ac.jp/library/digia/tenji/tenji2010/012.html> (2015/11/4) 2 筆者作成 3 Google Earth から引用 4 航空写真は Google Earth から引用、地質図は産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2015)20万分の1日本シームレス地質図 2015年5月29日版。産業技術総合研究所地質調査総合センターから引用(筆者加筆)

\*Graduate student, School of Science and Engineering, Waseda Univ.

\*\*Prof, School of Creative Science and Engineering, Waseda Univ., Dr Eng.